

# 会社案内



コーポレートカラー（白、赤、濃紺）には、大地（白）に根を下ろし、太陽（赤）そして無限の宇宙（濃紺）に向かって発展していこうという願いが込められています。

<https://www.hosokawamicron.co.jp>



プロセステクノロジーで未来を拓く

**ホソカワミクロン株式会社**

# 無限の可能性。

私たちの身の回りには多くの製品は、  
製造工程のいずれかの場面で粉体の状態をとります。  
粉体とは小さな固体の集まりで、  
粒子の大きさ、形、組成などに無限の種類があります。  
それらの組み合わせにより、様々な機能を発揮でき、  
そこには無限の可能性が秘められています。  
その粉体の性質を制御し、求められる品質を満たす  
粉体技術もまた無限の可能性を秘めています。  
ホソカワミクロンは、粉体技術の無限の可能性に  
挑戦し続けている企業です。

## ■ CONTENTS

ごあいさつ／基本方針	01
社会とともに歩み続けるホソカワ	03
社会を支えるホソカワの技術	05
事業紹介 粉体関連事業	07
プラスチック薄膜関連事業	08
グローバルネットワーク	09
未来の可能性を求めて	11

## 粉体技術の開発を通して 社会に貢献する。

ホソカワミクロンの「粉体技術」は、私たちの身近にある食品や医薬品といった製品から、IT・電子部品や新素材、ナノテクノロジーといった最先端技術の分野にいたるまで、幅広く社会との関係を持ちながら、成長を続けて来ました。当社は、様々な物質を砕く粉碎、必要な大きさの粉だけを効率よく取り分ける分級、そして混合、乾燥、造粒、捕集、供給、排出、輸送、計測など様々な粉体技術による製品群を峰々として、長年の経験と蓄積データから生み出された周辺技術を裾野に配した雄大な“粉体技術連峰”の形成を全力で目指してまいりました。ホソカワミクロンは、変化の速い時代の流れを先取りした新しい粉体技術の開発を通して、これからもお客様に信頼されるグローバル企業グループとして、社会に貢献できるよう努力を続けてまいります。



代表取締役社長  
社長執行役員

細川 晃平

### ■コーポレートビジョン

ホソカワミクロングループは、「粉体技術連峰」の形成により、常にグローバル・リーディングカンパニーであり続ける。プロセス機器、システムエンジニアリング、および新素材の開発、製造、実用化等により、次世代先端産業を創出し、「粉体技術連峰」の新たな展開を実現する。

### ■ミッションステートメント

ホソカワミクロングループは、経済的かつ優れた技術をもって顧客の多様なニーズに的確に対応してその満足を得るとともに、社会に貢献し、倫理的指針に基づく活動を通じ、自然環境の保護に努め、次世代の為の環境保全に取り組む。また、従業員の積極的なチャレンジを可能にする充実した職場作りを推進し、株主への適切な利益還元を行うことを使命とする。

### ■基本方針

#### 技術開発

世界のニーズは、ミリからミクロン、そしてナノへと微細化の流れを強めています。当社はそのニーズに応えるべく、技術革新に挑戦し続け、お客様の製品開発と付加価値の向上に努めてまいります。

#### 国際化

1950年代に海外進出を開始し、粉体技術に係る世界の企業をグループ傘下に入れることで事業を拡大してまいりました。当社製品をさらにグローバルに展開してまいります。

#### 人材集団の形成

企業の根幹を担う人材の育成こそが発展を続けるとの考えから、独自の研修制度や資格制度、グループ間の人材交流を通して、グローバル企業に相応しい一騎当千の人材集団を形成してまいります。

粉体技術連峰

優れた製品の峰々と山麓に広がる周辺技術

# 社会とともに歩み続けるホソカワ

独自の構造により、ミクロン単位の微粉を得ることができる微粉碎機ミクロンミルの発明以来、変化し続ける社会のニーズに応じて、常に新しい粉体関連技術を提供してきました。

1916 大正5年

## 創業

細川永一が大阪タービン水車製造所(大阪市)を創業

1930 昭和5年

重質炭酸カルシウム工業を興すきっかけとなる

## 粉碎機の開発販売開始

「ミクロンミル」を発明

1952 昭和27年

## 超微粉碎機の開発販売開始

「スーパーミクロンミル」を発明

1955 昭和30年

## 分級機の開発販売開始

「ミクロンセパレータ」を発明

1956 昭和31年

## 国際展開の開始

北京上海日本商品展覧会に出展  
第一次日本機械展航見本市に参加

1957 昭和32年

## 粉体工学への寄与

「粉碎」誌創刊

1959 昭和34年

## 乾燥機の開発販売開始

「ミクロンドライヤ」を発明

1960 昭和35年

## 海外拠点の設立

ホソカワミクロンインターナショナルLtd.(イギリス)設立

1962 昭和37年

公害(大気汚染)の原因となる煤塵の排出を抑制する技術が求められる

## 集じん機(パルスジェット式)の販売開始

「マイクロパルスエアー」等を導入

1963 昭和38年

## 混合機の販売開始

「ノウタミキサ」等を導入

1964 昭和39年

## 造粒機の開発

「ミクロングラニューライザ」を開発

1969 昭和44年

## 測定機の開発販売

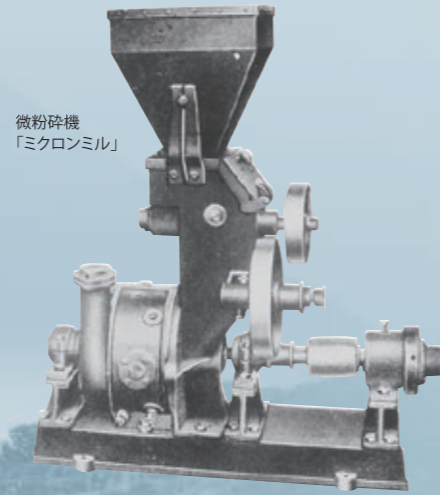
「パウダテスタ」を開発

1982 昭和57年

## M&Aによるグローバル化の始まり

## ノウタミックス社を買収

オランダ/混合機専門メーカーの経営権を取得



微粉碎機  
「ミクロンミル」



分級機  
「ミクロンセパレータ」



「粉碎」誌



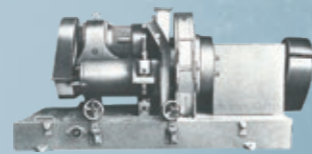
乾燥機  
「ミクロンドライヤ」



乾式ろ過集じん機  
「マイクロパルスエアー」



混合機  
「ノウタミキサ」



造粒機  
「ミクロングラニューライザ」



粉体特性評価装置  
「パウダテスタ」

# 産業の未来を切り拓く

# イノベーション。

1985 昭和60年

## USフィルターシステムズ社を買収

アメリカ最大の粉体処理装置メーカーの経営権を取得

1986 昭和61年

## 新社章とCIカラーの制定



グローバルに活躍する当社の姿勢を象徴し、地球の中央に英語の社名、その下に従来の社章を配置  
また大地(白色)に根をおろし、太陽(赤色)そして無限の宇宙(紺色)に向かって発展していく意思を  
色づかいにこめてデザイン

1987 昭和62年

IT化の進行(オフィスへのPCやコピー機の導入など)に応じた新素材開発技術や優れたトナー製造プロセスが求められる

## 粒子設計機器の開発

「メカノフュージョン」を発明

## アルピネ社を買収

ドイツ/欧州最大の総合粉体装置メーカーの経営権を取得  
「カウンタジェットミル」を導入



微粒子複合化装置  
「メカノフュージョン」

1989 平成元年

## 大証2部上場('92に東証1部上場)

企業価値の向上

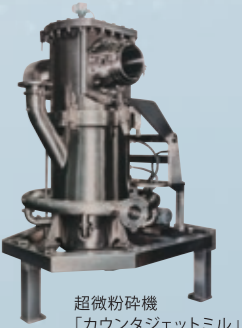
1992 平成4年

## ビーパックス社グループを買収

アメリカ/乾燥・造粒装置メーカーの経営権を取得  
「ソリッドエアー」等を導入



間接加熱型乾燥機  
「ソリッドエアー」



超微粉碎機  
「カウンタジェットミル」

1995 平成7年

## 海外に販売拠点設立(現地法人の設立)

ホソカワミクロンマレーシア Sdn Bhd. 設立  
以降、韓国、中国、インド、ロシアに販売子会社を設立

2004 平成16年

ナノテクノロジーを応用した商品の開発・販売が脚光を浴びる

## ナノ材料を用いた複合材料によるビジネスを開始

PLGAナノ粒子応用製品の開発・販売を開始  
2014年 ホソカワミクロン化粧品株式会社を設立



PLGANANO粒子応用製品  
「ナノクリスフェア」

2007 平成19年

## 事業基盤の整備

2007年 本社ビル竣工  
2013年 東京事業所竣工 関係拠点の整備統合  
2014年 アルピネ工場増改築完了

2016 平成28年

## 創業100周年

次の100年へ

2020 令和2年

## Solids Solutions Groupを買収

## 受託加工事業を分社化、ホソカワ受託加工株式会社を設立

2021 令和3年

## 新大阪工場 竣工



新大阪工場

2022 令和4年

## 東証プライム市場へ移行

2023 令和5年

## 合弁会社NEXOPART GmbH & Co.KG.設立(ホソカワアルピネの測定・ラボ機事業を移管)

# 社会を支えるホソカワの技術

ホソカワミクロングループの粉体処理技術(粉碎、分級、混合、粒子設計、乾燥、造粒、供給排出、測定、集じん、精密空調、コンテインメント)とプラスチック薄膜製造技術が、新製品開発と様々な製品の付加価値向上に貢献します。

気付かないけれどそこにある。

## 電池

- ・二次電池正極材料:コバルト系、リン酸系、コバルト系・マンガン系前駆体
- ・二次電池負極材料:黒鉛、シリコン



## 車

- ・バンパー:タルク
- ・タイヤ:カーボンブラック、ゴム
- ・メタリック塗料:アルミニウム粉末



## トナー、磁石、電子材料

- ・トナー:樹脂、シリカ
- ・シリコン製造用つぼ:黒鉛
- ・ネオジム磁石:希土類磁性材料
- ・半導体封止剤:エポキシ樹脂、シリカ
- ・積層セラミックコンデンサ:チタン酸バリウム



## 鉱物

- ・建材:石膏、フライアッシュ、超微粉セメント
- ・増量剤(フィラー):軽質炭酸カルシウム、鉱石、粘土
- ・歯科材料:セラミックス



## 食品

- ・米粉
- ・粉末茶
- ・小麦粉
- ・香辛料
- ・カカオ
- ・おから
- ・でん粉
- ・食物繊維
- ・トマトペースト
- ・増粘剤(カラギーナン)
- ・インスタント食品(スープ、ココア)
- ・ベビーフード、粉ミルク



## 医薬

- ・注射剤:薬剤、安定剤、緩衝剤
- ・散剤(粉薬):薬剤、賦形剤、崩壊剤
- ・錠剤、OD錠:薬剤、賦形剤、崩壊剤、滑沢剤、被覆剤



## 化粧品

- ・難燃剤:水酸化物
- ・紙おむつ:高吸水性樹脂(SAP)
- ・一般化成品:リン酸塩、顔料、染料、粉体塗料、セルロース(CMC)
- ・化粧品:酸化チタン、酸化亜鉛、顔料
- ・排ガス処理薬剤:重炭酸ナトリウム



## 合成樹脂

- ・水道管:塩化ビニル(PVC)
- ・フッ素コーティング:フッ素樹脂(PTFE)
- ・PETボトル、化学繊維、産業資材用プラスチック:ポリエステル(PET)、CO-PET、ポリアミド(PA)、ポリイミド(PI)、スーパーエンブラ(特殊PA等)



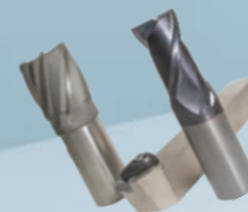
## リサイクル

- ・工場内リサイクル:フィルム両端、塩ビ窓枠、被覆銅線、廃タイヤ



## 超硬材料

- ・工具:タングステンカーバイド、シリコンカーバイド



## クリーンルーム

- ・製造工場:医薬品、食品、半導体
- ・工場、研究開発:医薬品、ナノ粒子
- ・病院:手術室



## 大気汚染防止

- ・焼却炉、ボイラー、熔融炉排ガス処理設備:高温排ガス集じん



## プラスチック薄膜

- ・包装フィルム
- ・食品用バリアフィルム
- ・電子機器保護フィルム



## 農業

- ・農薬
- ・飼料
- ・肥料:硫酸アンモニウム、化成肥料



# 事業紹介

## 粉体関連事業

私たちの生活を支える多くの工業製品は、原料やその製造工程では粉の状態が存在します。これらの加工には粉体技術が不可欠です。

日欧米および新興国を拠点として、粉体処理装置の開発・製造・システムエンジニアリング・メンテナンスサービスに加え、ナノ複合粒子の開発とその商品化を、グローバルに展開しています。

### ■ 装置販売とエンジニアリング

広範な産業分野で使用される、粉体処理装置の製造・販売・システムエンジニアリングに関する事業です。

粉碎、分級、混合、粒子設計、乾燥、造粒、供給排出、測定、集じん、精密空調、コンテインメントなどの装置を、研究開発用の小型実験機から大量生産システムまで取り揃えています。またお客様のご要望に応じて、単位操作を組み合わせたシステムを提供しています。

### ■ 受託加工

原料をお預かりし、当社の装置を用いて所望の粉体製品に加工する事業です。

研究開発用の少量試作から実生産レベルまで幅広く対応します。また清浄加工室を完備し、高品質な加工も実現しています。

### ■ マテリアル

有効成分をゆっくりと長く放出する性質を持つナノ粒子の複合化技術を商品化する事業です。オリジナル化粧品や育毛剤などの製造販売、OEM・ODM対応、受託研究を実施しています。



### ■ メンテナンスサービス

部品販売、保守、修理、改造などに関する事業です。お客様の安定した製造を実現するため、定期的な予防診断、スペアパーツの迅速な提供、オーバーホール、改造移設工事、また電話によるサポートに加え、インターネットや電話回線を利用したリモート診断サービスを実施しています。

## さらなる多様性と 高機能化を追求。

## プラスチック薄膜関連事業

医薬品や食品の包装フィルムには酸素や紫外線、水分から製品を保護する機能が要求されます。また、光学用マスキングフィルムには厚みの均一性や優れた平滑性が求められます。これらのニーズを満たす、単層から多層構造の高機能フィルムを製造する装置の開発・製造・販売およびシステムエンジニアリングを欧米拠点として展開しています。

### ■ フィルム製造システム

高品質のインフレーションフィルム製造ラインの製造・販売・システムエンジニアリングに関する事業です。

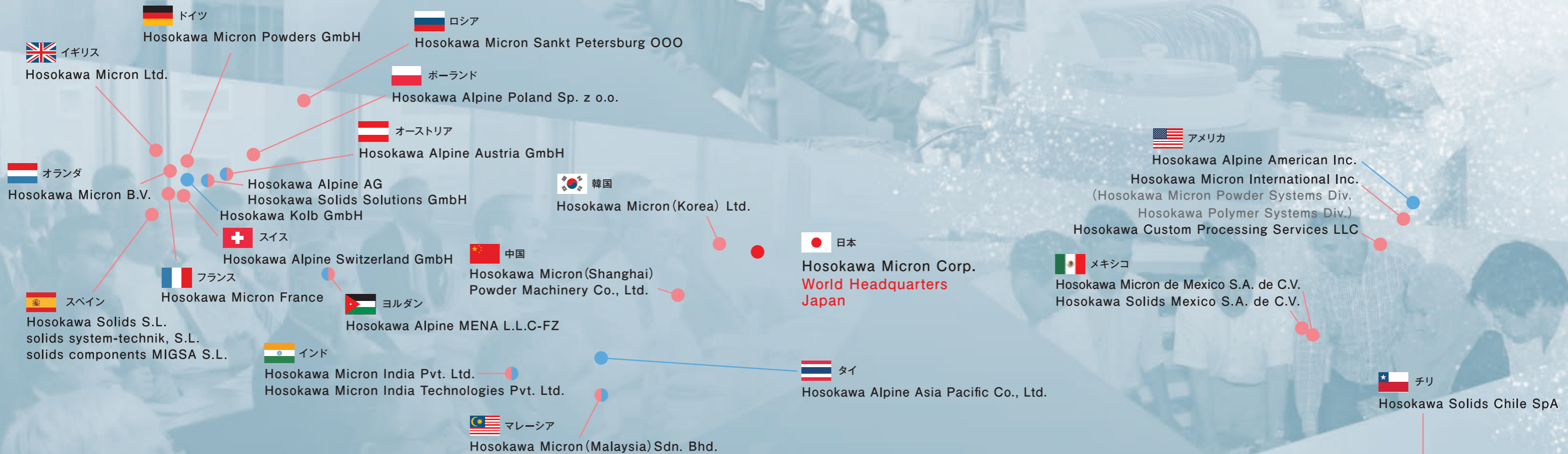
供給装置からフィルム巻き取り機に至るまで、一貫したシステムを取り扱っています。製造ラインの核となるのは特許取得済みのXダイ(金型)です。革新的でコンパクトな設計によって、業界で最短の製品切り替え時間を実現しています。この製造装置では、チューブ状のフィルムを容易に作る事ができるため、包装用フィルムの製造に広く使われています。



# グローバルネットワーク

各々のグループ企業が有する製品、技術、人材の融合を進め、より強固な連携を図ることで、競争力の高い企業集団を目指します。

## 世界に限りなく広がる 粉体技術連峰。



● 粉体関連事業 ● プラスチック薄膜関連事業 **世界20カ国32社42拠点**  
(2025年9月1日現在)

### 国内事業所・営業所

- 大阪事業所 (本社) 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1丁目9番地  
TEL:072-855-2226 FAX:072-855-5197  
大阪工場/TEL:072-855-2412 FAX:072-855-2410
- 東京事業所 (東京支店) 〒277-0873 千葉県柏市中十余二407-2  
TEL:04-7131-3180 FAX:04-7131-3183
- 奈良事業所 (ナノ複合粒子製造) 〒637-0014 奈良県五條市住川町1390番地  
奈良工場/TEL:0747-26-3960 FAX:0747-26-3970  
五條工場/TEL:0747-26-6090 FAX:0747-26-6091
- つくば篠崎事業所 〒300-3264 茨城県つくば市篠崎2345-1  
TEL:029-864-3786 FAX:029-864-7635
- つくば和台事業所 〒300-4247 茨城県つくば市和台27-2  
TEL:— FAX:—
- 下関営業所 〒751-0806 山口県下関市一の宮町2丁目7-24  
TEL:083-263-2656 FAX:083-263-2686
- 名古屋営業所 〒464-0851 愛知県名古屋市千種区今池南29番16号  
川島第5ビル2階  
TEL:052-735-4380 FAX:052-735-7750

### 国内関係会社

- ホソカワ受託加工株式会社  
(粉体の受託加工、受託製造及び販売並びに研究開発)  
〒300-3264 茨城県つくば市篠崎2345-1  
TEL:029-864-3786 FAX:029-864-7635
- ホソカワマイクロワグナー株式会社  
(粉体塗装システムの販売)  
〒573-0171 大阪府枚方市北山1丁目3番地18  
TEL:072-856-6751 FAX:072-857-3722  
〒277-0873 千葉県柏市中十余二407-2  
TEL:04-7131-3175 FAX:04-7131-3161



Hosokawa Micron Ltd.



Hosokawa Micron B.V.



Hosokawa Alpine AG



Hosokawa Micron Corp.



Hosokawa Micron International Inc.

# 未来の可能性を求めて

## 人材育成

グループ各社は、それぞれの国・地域に適した独自の方法で、適材適所の人員配置と環境変化に対応が取れるグローバル人材の育成に注力しています。また、人材の交流（相互派遣）によるお互いの企業文化や各国のビジネス慣習の理解を通して、技術のみの移転に留まらない真のテクノロジー・トランスファーの実現を図り、人材育成によってグループシナジー効果を最大限に発揮することを目指しています。

## 粉体工学への貢献

学術振興のみならず社会への貢献は、人類のみならず、人類をとりまく豊かで美しい自然界にとっても、よりよい環境に導いてくれるものとの信念のもと、粉体工学ならびにその周辺の研究の発展を支えています。

### ■ 学術支援・専門誌の発行

1957年以来続く「粉体工学に関する講演討論会」の開催、「粉碎」誌・「KONA」誌などの、粉体技術に関する学術誌発刊によって、社内外の粉体技術の向上・普及に尽力しています。

# 豊かで質の高い 未来のために。

低炭素社会、循環型社会、ユニバーサル社会などが、  
来たるべき豊かで質の高い未来を築くための  
社会として知られています。

ホソカワミクロンは多様化する社会やお客様のニーズに応え、  
あるいは新たな産業を生み出す一助となるべく、  
従来からのホソカワミクロンの技術に、  
異分野技術を融合させた革新的技術開発を進めてまいります。  
私たちの挑戦はこれからも続きます。